

(様式1)

| | | | |
|-----|--------------|-----|-------------------------------|
| 学校名 | 福島県立梁川高等学校 | 校長 | 高澤 正男 |
| 住所 | 伊達市梁川町字鶴ヶ丘33 | | |
| TEL | 024-577-0037 | URL | https://yanagawa-h.fcs.ed.jp/ |

災害ボランティアに参加して ～魅せた!! チーム梁川の底力～

□概要/台風19号は梁川町にも甚大な被害を及ぼしました。地域の一員として、梁川高校に何かできることはないだろうかと考え、全校生徒と教職員で10月16～17日の2日間、災害ボランティアに参加しました。当初は1日のみの予定でしたが、目を覆うような惨状に心を痛める生徒が多く、誰からともなく「いくら時間があっても足りない」「ほかに自分たちに何かできることはないか」「せめてもう1日ボランティアに参加したい」との声が次から次へとあがり、2日連続での参加となりました。



□内容/作業内容は主に家屋への浸水によって使用できなくなった家財道具の搬出です。とくに水分を含んだ畳の搬出には一苦労。ジャージはあっという間に泥だらけ。噴き出す汗。生徒たちは何度も何度も重いゴミを集積所まで運んでいました。奉仕はいつしか使命へと変わっていったようです。彼らの表情はとても凛々しく、力強く頼もしく、ここに「**チーム梁川**」の底力を垣間見ました。

□生徒の声/◆地域の方とよく関わり被害にあわれた方を少しでも助けられたのならとても良いことをしたと思った。今回のような大きい水害は初めてだったが、次に同じような台風がくるときの対策を考えることもできると思った。町のみんなが協力いつもの町に戻ることを願いたい。◆作業は大変だったが、だれかの役に立ててよかった。ボランティアっていいですね。◆2日間のボランティア活動で災害にあった人々の大変さやこういったボランティア活動で手伝ってくれる人たちのありがたみを身をもって実感しました。◆水が引いた後の梁川は泥水が多く、ゴミが何処か山になって積んであったりして思った以上に被害にあった人たちは大変だったんだなと実感しました。捨てる前に写真を撮っていて思い出の物を本当は捨てたくなかったんだろうなと見ていて思いました。お手伝いをした所もまだまだ片付けが終わっていませんが大変だと思いますが、少しでも早く元の梁川に戻れるといいなと思います。

《学校に届いた、住民の方からのお礼のことば》梁川高校の皆様いかがお過ごしでしょうか 私事 台風19号で被災、長年住み馴れた家屋を失うことになりました。その際には足元の悪い中ボランティアで重い畳、汚れた家具などを運び出して下さいました。感謝の念で一杯でした。おかげ様で順調に片付けは終わりました。その後、仮住いに移りようやく落ち着いた様に思われます。本当にありがとうございました 引率の先生ありがとうございました。

■京都市民のみなさま、募金ありがとうございました。

11月、2学年の修学旅行で訪れた京都・ゼスト御池にて、本校初の試みとなる郷土PR活動として地域課題研究の成果をまとめた冊子とともに郷土・伊達市の物産頒布を行いました。その際、台風19号で被害を受けた梁川町の写真を掲示し、生徒が募金を呼びかけたところ、心温まる励ましと労いの言葉とともに、わずかな時間にもかかわらず多大なる募金をいただきました。心より感謝申し上げます。寄せられた浄財は、12月5日、伊達市役所梁川総合支所にて代表生徒3名が須田市長へと手渡しました。

募金活動の様子は地元紙・京都新聞(2019.11.14)に掲載されました⇒



作成

西暦2019年12月

